

第5回草津市総合計画策定委員会概要		
日 時	平成20年12月12日(金) 14時00分～15時45分	
会 場	庁議室	
出席者	橋川委員長、山岡副委員長、三木委員、岩井委員、片岡委員、鎌田委員、林田委員、北川委員、矢内委員、加藤委員、中島委員、善利委員、多々良委員、稲田委員、奥村委員、上寺委員、田村委員、森委員、岸本委員	

## 1. 開会

## 2. 議事

### 1) 草津市の現状と課題について

事務局より説明

《意見等》

- ・位置と地勢、後で国土軸の要衝と出てくる。近畿圏だけではなく、中部圏、北陸圏の一部も含めた図にしてはどうか。
  - ・若い力に活気づくのなかで「こうした“若い”人々が地域に活気をもたらし、市民活動や協働の取組みがさらに活発となってきています」とあるが、若い世代が入ってくることによって協働の取組みがさらに活発になるのか。なかなか新しいファミリー層や若い者が町内に入ってくないということは聞くが、これはむしろ課題の中に入ってくるテーマではないか。
  - ・世界経済の影響を大きく受ける地域経済の内容については、マイナス面が出てくる事例として分かりやすいところであるが、時代潮流の観点から考えるとマイナスだけの作用なのか、プラスの面も含めて世界経済と結びついている。ここの表現が必要なのか必要でないのかも一度して欲しい。
  - ・多文化共生について、外国人観光客や留学生の流入拡大のことが書かれているが、在日外国人の方に対する人権などの表現も必要ではないか。
  - ・多文化共生の社会づくりのなかで、我が国が人口減少時代を乗り切るために、大量の労働力としての外国人を受け入れていく必要があると記載されているが、人口減少に応じた国づくりを進めていけば良いのではないのか。
  - ・課題の抽出について、3項目あがっているが、右肩上がりのハード面しか見えない。福祉などのソフト面が見えない。教育、福祉、文化という面は出しにくいのかもしれないが、項目に入れられないか。「福祉・健康」とかの項目が出てきたなかでの課題の抽出が出来れば一番良い。
- 前回の議論でも、また策定幹事会の意見でも、ハード調に感じるとの意見であったので、できるだけ今回はソフト面でのことで、まずは「まちの調和」ということで今まで草津市が開発志向で進んできたところを一定「うるおいのある景観」を大切にしていこうということで整理した。2点目は「文化と教育」ということ。市民が市民であることを誇れるような文化を生み出していこうということ、それと、地域協働合校の人が学び育つ環境を充実させていくということで整理し、事務局としては、ハードから、ソフトに切り替えて整理を行った。
- 現在の総合計画では、交通体系とか行政分野に沿った形での課題の項目立てを行なっているが、今回のスタンスとして行政分野ごとの課題の出し方ではなく、横断的にとらえた形であげている。大きな柱も従来では10以上あったものを、今回は3つにし、教育文化という観点では「幼少期からの生涯を通じた人が学び育つ環境を本市の中に充実させていくことが望まれます」という整理をしたのと、福祉については、国なり県なりの制度が必要であるが、地域で支えていく新たな地域コミュニティを創っていくことが必要というような考え方で整理したものである。

・これまでの総合計画を見ても、草津の課題、草津の特性課題として編み出す方法と、それぞれの課題を出し、そこから考えるという2通りのやり方がある。重点プロジェクトとなったときにお互いの情報が見えず、市民会議で議論されると身近なまちのことや課題が議論される。市民の目で見える課題にも取り込まなければならないし、集中と選択という形で課題を整理しながら、データだけでなく、現場からの声も取り込みながら整理する必要がある。

・歩いて暮らせるまち、コンパクトシティ構想につながっていくことであるが、「大型商業施設の立地などにより自動車に頼らざるを得ないライフスタイルに」については、商業施設だけではない。もともと、郊外の方に住宅が移っていったと。そのなかで車が必要になったという逆の話もある。中心市街地というのは商業の活性化だけではなくて、福祉、教育なども全て含めてである。歩いて暮らせると言うのは、それぞれの地域があり地域核として存在する。それを中心市街地の方へ来ていただく。病院も住宅も中心市街地へ持っていくというなかで歩いて暮らせるまちというとり方もある。

・これだけ点在化して地域がそれぞれ機能を果たしているなかで、中心市街地に市民を誘導していきこうという発想は今後もとり続けていくのか。草津市全てがコンパクトシティであるという考え方もある。

→どちらかと言うと後者の方でまちづくりを進めてきたと考える。幹事会でも議論のあったところであるが、極端に言えば、国の方針のイメージでは、周辺部のまち・村の住民に駅周辺に移住してもらわなければならないような形で言われている。果たして国の言うコンパクトシティを草津市が目指すのか、我々としては疑問がある。それぞれの地域は地域なりに歩いて生活できる機能は分散しなければならない。なおかつ、それぞれの地域間を公共交通のネットワークで結ぶ。そういうまちづくりを目指していかなければいけないのではないのかと考える。

## 2) まちづくりの理念と都市ビジョンについて

事務局より説明

《意見等》

・働く人にとっても、教育の環境は大切である。安心して教育、子育てができるまちという言葉を入れて欲しい。

・地域のところで支え合うとあり、「支え合う」という言葉を入れてはどうか。

・どういった形でいつ頃決定するものか。

→本日の意見は審議会にも上げ、ビジョンなどは最終まで決まらないこともあり、ボトムアップ等、行ったり来たりしながら決定していく。

・「地域経営」という言葉の使い方を統一されたい。

## 3) その他

### ■ 座・でいすかすについて

無作為抽出した2,000名に募集、4.5%（90人）の応募があった。

12月6、7日に実施。14日に3日目を実施する。